

令和4年度 第1回大阪府立高津高等学校 学校運営協議会議事録

日 時： 令和4年7月19日(火) 18:30～20:15

会 場： 高津高校記念館同窓会室

出席者：＜委 員＞ 森田 英嗣 (大阪教育大学教授)

新崎 国広 (大阪教育大学特任教授)

竹村 伍郎 (地域情報誌「うえまち」編集局長)

古門 真一 (同窓会副会長)

安田 智則 (PTA 会長) ※zoom によるオンライン参加

川端 秀治 (前 PTA 会長)

＜事務局＞ 立川 猛士 (校長)、佐保田 真一 (教頭)、熊本 浩恵 (事務長)

前川 紘紀 (首席)、中原 章太 (首席・3年学年主任)、菅 康之 (記録係)

1. 学校長挨拶

2. 学校からの「学校経営計画」等にかかる説明

(1) 令和4年度学校経営計画の進捗状況について

ア 「学校経営計画」の内容について

- ・前年度末に示したものとほぼ同じで内容に変化はなし。

イ 進捗状況について

① 確かな学力と高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進

- ・土曜講習は1年生が年20回程度全員参加、2・3年生は選択制で行っている。
- ・英語運用能力向上対策として、本年度は7/25からのKITECの実施や海外学校とのオンライン交流、英検の校内受験などを行っていく。
- ・生徒1人1台端末利用は、コロナ感染で休んでいる生徒に対しての授業配信や、体験型進路学習（職場訪問）等研究発表をすすめていく場面において大いに役立っている。今後は普通授業での効果的な活用や評価方法等を検討していく。

② スクールアイデンティティに基づく、豊かな心の育みと規律・規範の確立

- ・部活動による“キャラバン隊”が本年度から復活し、社会奉仕活動を行っていく予定。
- ・先生方の指導のおかげで、遅刻数も落ち着いてきている。年間遅刻総数2,000回以内を目標にしている。

③ 教職員の資質向上と学校運営体制の確立

- ・本校の魅力をよりアピールするために、HP等を少し改善した。
- ・ICT活用のプロジェクトチームを作り、校務・授業活用方法など教職員への発信を行っている。
- ・ミドルリーダー育成のため、若手を首席や分掌長に抜擢し、早くから色々な経験をさせている。

- ◆ この項目については、昨年度の第3回学校運営協議会でも意見があったが、教職員向け学校教育自己診断結果より課題が顕在化しており、後ほど説明。

(2) 新規取組み等について

① 高津高校クリエイトラボ・セミナー **NEW!**

- ・104年の歴史を持つ高津高校。GLHS委員会と同窓会が協力し、「君たちにもっと刺激を与えたい！」そんな気持ちで企画された、高津卒業生による高津生のための特別講演会。
- ・月1回のペースで、部活終了後の18時15分よりクリエイトラボにて実施。
- ・様々な分野で活躍されている卒業生の方の話を聞くことができ、生徒の刺激になっている。

② 令和4年度GULS (高津と国際交流センター共同実施 ⇒ 国際交流センター自走へ)

- ・GULS とは、多文化共生社会の中、グローバルに活躍できる人材育成の手段の一つとして、大阪国際交流センターと高津高校が立ち上げた語学学習プログラム。
- ・今年度から大阪国際交流センター主催で実施。
- ・日本の大学院へ留学している主にアジア圏の大学院生を講師とし外国語会話教室を実施。目的別に3つのコースを準備 英語ディスカッション・日常英会話・日常韓国語会話
- ・年20回で11,000円という費用で、日本の大学院へ留学している学生から英会話を学べるので、定員を超える人気。

③ KOZU Science Labo 研究交流会 **NEW!**

- ・国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)主催のSSH交流会支援事業に応募し採択。
- ・SSHプログラムで学んだ生徒や科学系部活動部員がその研究成果を地域の小中学生へ発表することで、生徒のプレゼンテーション能力の向上を図る。また、他校の生徒との研究交流や議論を通して、自身の研究の深化を図る。
- ・また、SSHやGLHS、その他様々な本校の取組みを経て進学し、現在最前線で活躍する卒業生を招聘し、生徒たちに刺激を与えることができると考えている。

④ オンライン交流会

- ・アジア・太平洋地域の環境や国際交流に興味・関心をもつフィリピン、韓国、台湾の生徒が参加し、海外の高校生とのオンラインでの国際交流や共同研究発表会を通して、お互いに対する理解や友情を深め、異文化理解・国際交流を考える機会とする。
- ・年間4回の計画で、既に1回実施したが、海外の高校生は積極的であり、高津生がより積極的に英語で自身の考えを主張していくことができると考えている。

⑤ 国際メンタリングワークショップ **NEW!**

- ・世界で活躍する理工系女性と女子高校生との交流。他の府立学校生も参加。
- ・高津独自の取組みとして、現在最前線で活躍する卒業生との意見交流会を実施。

(3) 令和5年度使用教科書選定について

- ・資料を配付しての説明

3. 学校運営にかかる課題について

(1) 教職員向け学校教育自己診断結果より顕在化した学校運営にかかる課題について

【課題】 ■ 学校の組織的運営、校務の効率化及び情報共有 ■ ミドルリーダーの育成

- ・学校の組織的運営、校務の効率化及び情報共有

「各分掌や学年・教科等の円滑な連携等に対する肯定的意見」 R2: 85% ➡ R3: 62%

- ・教員の資質向上とミドルリーダーの育成

「ミドルリーダー育成に関する肯定的意見」 R2: 81% ➡ R3: 62%

(2) 教諭の年齢構成から分かること

- ・ 30歳代以下の教諭が全体の5割強
- ・ 56歳以上の教諭が全体の3割
- ・ 本校勤務歴3年未満の教諭が全体の4割

⇒ 多忙な中、二回り以上離れた世代間での、教科指導力や業務の継承をどのように図るか
経験年数が浅い若年層のミドルリーダーをどのように育成していくのか

(3) 課題解決に向けての取組みの進捗

- ・ 4月初より全教職員との面談を実施し、現状把握。
- ・ ミドルリーダーによる「校内学習システム PT」を作成し、ICTの利活用の促進に当たり、組織的に企画運営に関わる機会を増やしていく。それにより、達成感、企画運営力、ファシリテーション力の醸成を図り、人材育成につなげていくことができると考えている。
- ・ 30歳代半ばの首席を中心に、次年度に向け、校内組織体制の見直しを検討していく。

4. 質疑・応答

(1) 教職員の資質向上と学校運営体制の確立について

質問(委)： プロジェクトチームは具体的にどのようなことをしているのか。その年齢構成は？

回答(事)： 効率的なICTの利用の研究やその普及を実施している。また、すべての教員がオンライン授業に対応するためのスキルアップ研修を企画し、実施している。メンバーは、若年層中心で構成されている。

質問(委)： 働き方改革にかかるような取組みは？

回答(事)： 新型コロナなどにより配信を希望する生徒へ展開授業を含むすべての授業の提供を図るため、毎朝、生徒情報を授業担当者と共有化するシステムを構築し、すべての授業でのオンライン配信を可能とした。また、普段行っている業務を見直し、業務の効率化を図るシステムを構築している。例えば遺失物管理業務で“落とし物アプリ”を作成し活用している。これは他校へ汎用性のある取組みと考えられる。

質問(委)： “ミドルリーダー”の定義は？“ミドルリーダー”の具体的なポジションやあるべき姿、期待するものが見えてこないのでは。

回答(事)： 教員の年齢構成は20~30才台と50~60才台が多く、中間層が少ない。これは学校現場も府教委事務局も同じ。20~30才台で首席や指導主事となり学校や府教委事務局を牽引し、将来的に教頭や校長になっていく人を育てなければならない。
首席には、各分掌の連携や業務の“見える化”をめざしてもらいたい。

質問(委)： 色々な取り組みに対して、高津OBとそうでない方の熱量の差はあるか。

回答(事)： 教職員は、高津高校としてどう生徒を育成すべきかを考えており、OBであるなしにかかわらず熱意をもって取り組んでいる。

質問(委)： ミドルリーダーといわれる当人はどう感じているのか。

回答(事)： 本校が2校目だが、初任校ではミドルリーダーといわれる世代の教員が少なかったこともあり、イメージがない。自分の思うとおりにやっていいのか不安もあったが、それを実践している。

回答(事)： 本校が初任校なので研修で学んだイメージしかない。若輩がミドルリーダーにならなけれ

ばならないことも納得できるし、OB教員に負けなつもりで取組んでいる自負はある。

質問(委)：他の若い人はどう感じているのか。

回答(事)：この学校を変えていきたいと思う人は多いが、意見を出せない人がいるのではないか。

質問(事)：企業と違って、学校は水平の組織なので、意見を出し易いはずなのだが、どう組織づくりをすれば意見を出しやすくなるか。

回答(委)：“助け上手、助けられ上手”と言うが、得意なところは得意な方がするなど、役割分担してチームでアプローチするのがいいのではないか。1人でするのは大変なので複合的に考えることが大事。

意見(事)：“やりがいを感じているか”、“モチベーションをどう高めるか”を、人も変わっていく中で見極め、個々のやりたいことを拾い上げていくのが管理職のすべきこと。

意見(事)：ミドルリーダーとなるべき人が、自分たちで成功体験を得て成長していくようになれば良いのだが、最近では“やりがい搾取”と批判されることもあり、難しくなっているのも事実。

意見(委)：有名な企業でも無報酬で勉強や仕事をさせているところもあるが、そこから学び得ることは大きい。

(2) 高津高校クリエイトラボ・セミナーについて

意見(委)：生徒にとって“先輩”という自分に近い人が語ってくれるのはとても力強く感じられる。

回答(事)：クリエイトラボ・セミナーにおいては、卒業生の方々の本校生への熱い思いと、第一線で活躍されているとても有意義なお話を毎回していただいている。

卒業生の方々を軸に縦のつながりを大切に在校生の意識を高めるこの取組みは本当に素晴らしい。現在、SSH、GLHS指定後の卒業生の追跡調査を行っており、SSHで学んだことがその後の進路にどのような影響を与えているかも調べている。

(3) KOZU Science Labo 研究交流会について

質問(委)：地域との交流とは具体的にはどんなものか。

回答(事)：高津中学等の地域の中学生や小学生に対して、高津高校の研究成果を高津生がTAとして教授する。SSH事業を通じて、地域の小・中学生と連携していくことが重要なポイントである。

意見(委)：公立に限らず、私学も候補に入れて、開拓するのがいい。それがまた学校のPRにもなる。

意見(委)：味原小学校等の地元の小学校との連携を進めていってもらいたい。

(4) 令和5年度使用教科書選定について

質問(委)：“情報Ⅰ”はどうなっているのか。

回答(事)：本校では“情報Ⅰ”は学校設定科目の“高津 LC 情報”に取り込んで行っている。プログラミングやデータサイエンスなど大阪工業大学と連携し、授業で扱う教材を開発し提供してもらっている。入試で情報Ⅰがどのように取り入れられるかを心配している生徒もあり、今後、共通テスト対策が必要となってくる。

5. 今後の学校運営協議会日程について

第2回 令和4年12月下旬を予定

第3回 令和5年3月下旬を予定